



# 天文台だより

銀河の森天文台  
2020 春号  
Vol. 87

## オーロラウィーク2020を開催しました!



2020年1月29日(水)～2月9日(日)の期間、「オーロラウィーク2020～カナダ・イエローナイフからのオーロラ生中継～」を開催しました。今年で8年目を迎えるこの生中継は、AuroraMAXプロジェクト(カナダ宇宙庁、カルガリー大学、アストロノーミーノース、イエローナイフ市)の協力の下、館内の4m エアドームと150インチスクリーンで行いました。

期間中の2月8日(土)には、上出館長にオーロラの疑問を直接聞くことができる企画「オーロラ何でも質問会」を開催しました。質問会では上出館長が自宅からスカイプで登場し、参加者から、「館長がオーロラ研究へ興味を持ったきっかけは?」、「オーロラが良く見られる場所は?」、「次に陸別でオーロラが見られるのはいつ?」など様々な質問があり、館長からの返答・解説をみんなで聞くことができ、大変盛り上がりました。

### 「館長コラム」上出洋介(牡牛座)

世界保健機関WHOは、いま世界中で猛威を振っているウイルスに新型コロナウイルスと命名しました。王冠や光冠を意味するラテン語、ギリシャ語が語源です。つまり、このウイルスが太陽のコロナと形が似ているということです。

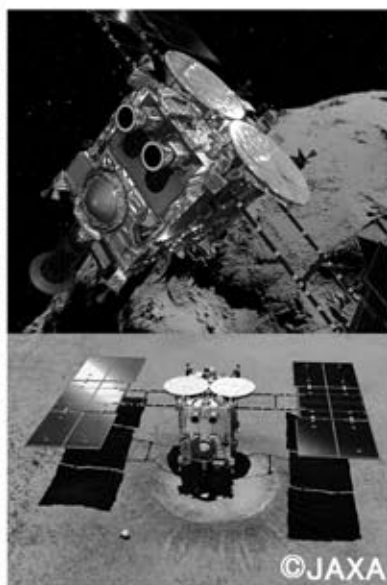


(上出洋介館長)

太陽の活動度は、約11年の周期で増減を繰り返す全黒点数で定義されます。活動度の記録を残し始めた1750年以来現在までの270年間(24周期の終末期)、太陽はかなり忠実にこの11年周期ルールを守ってきましたが、最近になって調子が狂い出したのです。24周期の中でも、現在の活動は最小の中の最低ということがわかってきたのです。

そういう意味では、今冬のオーロラ活動は歴史的に最低と言いたいところですが、実はそうでもないのです。太陽活動のピークは、よく見ると、2-3年離れた2つのピークでできていることが発見され(発見者は私: Astrophys. J., 2012年)、謎の太陽の議論がますます熱くなっているのです。複雑な自然現象の解明は、一筋縄ではいかないようです。

## 速報! 7/11、はやぶさ2 津田雄一先生講演会決定!



2020年7月11日(土)に開催いたします「第12回陸別スターライトフェスティバル」において、小惑星「リュウグウ」から地球に向けて帰還中の探査機「はやぶさ2」のプロジェクトマネージャでTV等でも有名な津田雄一先生(JAXA教授)の講演会開催が決まりましたのでお知らせします。

講演会は午後7時からを予定しています。演題は「小惑星探査機はやぶさ2～リュウグウ探査報告と地球帰還に向けて～」になります。はやぶさ2に関して誰よりも詳しい津田先生から、はやぶさ2の最新情報を聞くことができる絶好のチャンスです。まだ先のお話ですが、詳細は天文台ホームページでお知らせします。ぜひ、ご来館ください。

## 暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
4月 1日	5:03	17:55	7.7	9:36	0:34
4月 15日	4:39	18:12	21.7	1:02	10:14
5月 1日	4:14	18:31	8.0	10:34	1:03
5月 15日	3:57	18:47	22.0	0:56	11:09
6月 1日	3:43	19:03	9.4	13:16	1:17
6月 15日	3:39	19:12	23.4	0:36	13:01

# 天文行事&暦

## 4月

- 4 清明(24節気:太陽黄経15°)
- 8 ○満月
- 20 穀雨(24節気:太陽黄経30°)
- 23 ●新月
- 28 金星が最大光度(-4.5等)
- 29-5/6 夜空のわくわく動物星座観望会

## 5月

- 4/29-5/6 夜空のわくわく動物星座観望会
- 5 立夏(24節気:太陽黄経45°)  
特別開館
- 7 ○満月
- 11-22 天文台メンテナンス休館
- 20 小満(24節気:太陽黄経60°)
- 23 ●新月

## 6月

- 4 水星が東方最大離角  
(光度:0.5等, 離角:23.6°)
- 5 芒種(24節気:太陽黄経75°)
- 6 ○満月
- 11 木星が衝  
(光度-2.6等、視直径46.0")
- 21 夏至(24節気:太陽黄経90°)  
●新月  
部分日食観望会  
部分日食(陸別): 始16:16、  
最大17:01、没17:43

## 春のイベント情報!!

### ☆夜空のわくわく動物星座観望会

しし座など夜空の動物星座を巡る観望会を開催します。  
春の夜空に浮かぶ動物たちをお楽しみ下さい。

開催日時: 4月29日(水)~5月6日(水)

説明会: 午後7時30分から(土・日・祝日のみ)

### ☆部分日食観望会

6月21日夏至の日の午後、部分日食が日本全国で見られます。陸別では、午後4時16分から欠け始め、午後5時1分に食が最大になり、午後5時43分に終わります。食分最大は0.26です。

開催日: 6月21日(日)

説明会: 午後3時45分から

部分日食(陸別): 始16:16、最大17:01、終17:43

### 天体そもそも話「太陽」

今回は空で一番明るい天体、太陽についてお話をします。

「豊かに大きい」という意味の「太」、「日の光」を表す「陽」という字を充てられている太陽。英語の「sun」は元をたどれば、「輝く」という意味だったと考えられています。どちらもその明るさから名付けられていて、その明るさを等級で表すとおよそ-26.7等級、1等星の約1,200億倍という途轍もない明るさになります。

その輝きは太陽の中心で起きる核融合反応により水素がヘリウムへと合成される際に生じる熱エネルギーによって生み出されています。中心では1,500万度という高温の世界になっていますが、表面まで熱が伝わると温度は下がり、太陽は約6,000度で輝いて見えます。

そんな太陽ですが今年の6月21日、夏至の夕方に日食が起こります。日本では部分日食ですが、台湾などに行けば美しい金環日食を見ることができます。当館でも説明会と観望会を行いますのでぜひお越しください!(三)

### ペッコカめぐり「かんむり座」

かんむり座は、2等星のアルフェッカ以外はあまり明るい星の無い地味な星座です。しかし星が半円形に並んだ形が意外と目立ち、比較的簡単に見つけることができます。

アイヌ語ではかんむり座を「タマサイノチウ(首飾り星)」とよんでいます。かんむりと首飾り、どちらも実際の星の並びのイメージにぴったりな名前ですね。

昨年、かんむり座のひとつの星とその周りを回る惑星に、それぞれ「カムイ(Kamuy)」と「ちゅら(Chura)」という名前が付きまして。「カムイ」はもちろんアイヌ語のカムイ、「ちゅら」は沖縄・琉球語です。

写真の○印の場所にカムイとちゅらがいます。6.6等星なので、肉眼で見える人もいないかもしれません。(中)



### 天文台からのお知らせ

- ☆ 4月より開館時間が、14:00~22:30となります。(昼間14:00~18:00、夜間18:00~22:30)
- ☆ 5月4日(月)、5日(火)は、特別開館します。
- ☆ 5月11日(月)~22日(金)は、天文台メンテナンス休館となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100

URL: <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: [ginga@rikubetsu.jp](mailto:ginga@rikubetsu.jp) Twitter: @ginganomori\_obs

